

平成 25 年 6 月 25 日 00124 号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

北見武道通信

ニュースター【柔道情報】第 10 回オホーツク圏青少年柔道研修交流会

6 月 22 日(土) 23 日(日)北海道立北見体育センターにおいて「全柔連公認指導者資格制度」についての説明会と「投げの形」の講習会が行われました。第 10 回目となる当研修会は東北柔専 OB 会北見支部(中西誠支部長)が毎年開催しており、昨年に引き続き一般社団法人北海道柔道連盟安全委員会副委員長大川原洋七段を

講師に招き実現しました。大川原講師は『『投げの形』は、相手を投げる為に必要な『作り・崩し・掛け』を理解する為に大切な稽古』と解説し、小中高生・一般の参加者 72 名が熱心に指導を受けていました。中西誠支部長は「正しい『投げの形』の指導を受けられ大変勉強になります。今後も続けて行きたいと考えています。」と抱負を語ってくれました。(佐藤)



【少林寺情報】初段に合格しました！！

初段合格しました。少林寺拳法北見道院在籍の生駒拳士、土屋拳士の両拳士は 5 月 26 日サントライ北見で北海道少林寺拳法連盟から審査員を招き、東北海道少林寺拳法協会では 20 名の受験者が望み、見事合格しました。昇段試験内容ですが、少林寺拳法は、学科と実技が行われます。学科は 100 点満点で少林寺拳法の教えと一般道徳的内容でのペーパーテスト筆記試験を行います。技術では、100 点満点で指定する基本動作や受身・単演・組演武で評価し、いずれも 70 点以上を合格とします。両拳士は 1 年前から取組み、特別練習や模擬試験をクリアしての挑戦で、中盤は中だるみがあり心配していたが、後半は真剣に取り組み、当日は緊張しての受験でしたが学科、実技とも難なく出来たようで見事合格し、喜びもひとしおのようでした。二人とも中学 1 年生ですが、精神的にも成長し、今は後輩の面倒など指導力を発揮し、先輩としての自覚も芽生えてきているようです。次は二段に向けてさらに修行に励んでほしいと思っています。(北見道院長 宮末政則)



連載 中国「老子」の思想

八章 水にまなべ

最高の善とは水のごときものをいう。水は万物を助け育てながらも自己を主張せず、だれしも嫌う低きへ低きへとくだる。だから、「道」に似ているといつてよい。

水、それは、位する所は、低い。心は、深く静かである。あたえるに、わけへだてがない。言動に、いつわりがない。おさまるべきときには、必ずおさまる。はたらきは、無理がない。時に従って、変転流動して窮まることがない。

水と同様に、自己を主張せぬもののみが、自在な能力を得るのである。

原文:上善若水*。水善利萬物而不争、處衆人之所惡。故幾於道。居善地、心善淵、與善仁、言善信、正善治、事善能、動善時。夫唯不爭、故無尤。九章に続く<上善若水*>上善は水のごとし「水は万円の器に随う」といい、「行運流水」という。いずれも水の流動して止まぬところをひいてのたとえだが、老子は水にダイナミックな「不爭の徳」を象徴させた。流動するから力を持つのである。